

# 助動詞 基礎

空欄に適する語句を選びなさい。

- I think you [ ] have studied a lot because you passed the entrance exam.

(亜細亜大)

- ① should [校正用: false]
- ② must [校正用: true]
- ③ can [校正用: false]
- ④ ought [校正用: false]

解答：②

## 【設問の解説】

「私が思うに、入学試験に合格したのだから、あなたはずいぶん勉強したにちがいない。」  
推量を表す助動詞の意味のちがいを覚えて、しっかり使い分けられるようにしておこう。本問は、完了形といっしょに使って、過去の事柄についての推量を表す用法。

〈 should [ ought to ] have + 過去分詞 〉 「～すべきだったのに（実際にはしなかった）」

〈 must have + 過去分詞 〉 「～したにちがいない／～だったにちがいない」

〈 cannot [ can't ] have + 過去分詞 〉 「～したはずがない／～だったはずがない」

空欄に適する語句を選びなさい。

- We [ ] to hurry. There are still thirty minutes before the train leaves.

(札幌大)

- ① must not [校正用: false]
- ② had better not [校正用: false]
- ③ don't have [校正用: true]
- ④ don't get used [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「急がなくていい。列車が出発するまでまだ30分ある。」

空欄のあとに不定詞〈to + 動詞の原形〉がつづいているので、①・②は不適切。2文目に「まだ30分ある」と書かれているので、**don't have to** ～「～する必要がある」を使うと文意が成り立つ。

④は〈**get used to** + 動詞のing形〉で「～に慣れる」という意味になる。

空欄に適する語句を選びなさい。

- I [            ] often play catch with my father when I was a child.

(名古屋学院大)

- ① had [校正用: false]
- ② have [校正用: false]
- ③ would [校正用: true]
- ④ should [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「子どものころは、よく父とキャッチボールをしたものだ。」

過去の習慣を表す助動詞 **would (often)** 「（以前は）よく～したものだ」

類似表現の **be used to** 「（以前は）よく～したものだ／（以前は）～だった（が、今はちがう）」とのちがいに注意。be used toは動作動詞・状態動詞のどちらにも使えるが、would (often)は動作動詞にしか使えない。

- There used to be a church on the hill.
- × There would (often) be a church on the hill.  
(以前は丘の上に教会があった。)

空欄に適する語句を選びなさい。

- Kenta [            ] cycle 10 kilometers to college when he was a student.

(南山大)

- ① would [校正用: true]
- ② shall [校正用: false]
- ③ might [校正用: false]
- ④ should [校正用: false]

解答：①

【設問の解説】

「ケンタは学生のころ、大学までの10キロメートルの道のりを自転車で通っていた。」

過去の習慣を表す助動詞 **would ( often )** 「（以前は）よく～したものだ」

類似表現の **be used to** 「（以前は）よく～したものだ／（以前は）～だった（が、今はちがう）」とのちがいに注意。be used toは動作動詞・状態動詞のどちらにも使えるが、would (often)は動作動詞にしか使えない。

○ There used to be a church on the hill.

× There would (often) be a church on the hill.  
(以前は丘の上に教会があった。)

空欄に適する語句を選びなさい。

- They [            ] not to worry about this matter.

(立命館大)

- ① are better [校正用: false]
- ② may [校正用: false]
- ③ ought [校正用: true]
- ④ should [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「彼らはこの問題について心配すべきでない。」

notの後ろのtoに注目しよう。

ought to 「～するべきだ」（＝ should）の否定形はnotの位置に注意。

ought not to 「～すべきでない／～しないほうがよい」

空欄に適する語句を選びなさい。

- That's important information, so [            ] Julia to tell her as soon as we arrive at the hotel.

(宮崎大)

- ① I called [校正用: false]
- ② I'd call [校正用: false]
- ③ I'll call [校正用: true]
- ④ I would've [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「これは重要な情報だから、ホテルに着いたらすぐに、ジュリアに伝えるために彼女に電話しよう。」

文の後ろにas soon as we arrive at the hotel「私たちがホテルに到着次第」とあるので、ジュリアに電話をかけるのは未来のことだとわかる。**未来**を表すときは助動詞 **will** を使う。

〈as soon as + 主語 + 動詞〉「～するとすぐに」

空欄に適する語句を選びなさい。

- You [            ] home as soon as possible.

(－)

- ① had better to go [校正用: false]
- ② had better go [校正用: true]
- ③ have better to go [校正用: false]
- ④ have better go [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「できるだけ早く帰宅したほうがいいぞ。」

**had better** は「～したほうがよい」という意味。

had betterのかたまりで1つの助動詞として覚え

ておこう。なお、had betterは威圧的な表現なので、ふつう目上の人には使わない。本問は、親が子どもに対して忠告している場面を思いうかべるといい。

空欄に適する語句を選びなさい。

- We [            ] to think about the future of our country.

(－)

- ① may [校正用: false]
- ② should [校正用: false]
- ③ must [校正用: false]
- ④ ought [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「私たちは自国の未来について考えるべきです。」

空欄の直後のtoに注目。

ought to 「～すべきだ」 = should

空欄に適する語句を選びなさい。

- I would [            ] live alone for the rest of my life.

(－)

- ① like [校正用: false]
- ② better [校正用: false]
- ③ have [校正用: false]
- ④ rather [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「残りの人生はひとりで暮らしたい。」

would rather で「（むしろ）～したい」という意味。この表現は、would rather ~ than ... 「...するよりも（むしろ）～したい」のthan ... が省略されたもの。

空欄に適する語句を選びなさい。

- The farmer pulled on the rope, but the horse [ ] move.

(－)

- ① would [校正用: false]
- ② wouldn't [校正用: true]
- ③ will [校正用: false]
- ④ won't [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「農夫はロープをぐいと引っばったが、馬はなかなか動こうとしなかった。」

助動詞willには **主語の強い意志** を表す用法があり、否定形の **will [ would ] not** で「（なかなか）～しようとしなない〔しなかった〕」という意味になる。本問では、The farmer pulledの時制に合わせて過去形を使う。

ここに参考書リンクが入ります